

# 年頭のご挨拶

平成31年（2019年）1月

一般財団法人 電気通信端末機器審査協会（JATE）

理事長 木村 順 吾

新年明けましておめでとうございます。

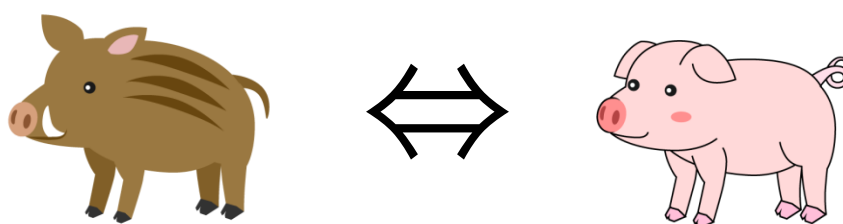
平成31年（2019年）の年頭に当たり、徒然の感想とともに、ご挨拶を申し上げます。



さて、今年の干支は、十二支の最後12番目の**亥**（=猪）です。「猪」は、日本では「イノシシ」を意味しますが、中国では「ブタ」を意味するそうです。逆に、「イノシシ」を表記したい場合、「野猪」と表記し、特に「ブタ」を区別したい場合は「家猪」と表記するそうです。中国だけでなく、中国の文化・風習の影響を直接に受けた朝鮮やベトナムでも、「猪=ブタ」を意味するそうですから、東アジアの漢字文化圏の中でも日本だけが独立してしまっています。

歴史を遡ると、もともと、ブタは、イノシシが人間に家畜化されるうちに品種化していった動物であり、中国ではブタが重要な食材として家畜化と食用の歴史が長かったために、「猪」という文字がブタを意味するように転訛していったのではないかと推測します。対して日本では、縄文時代からイノシシは狩猟の対象であったでしょうし、ブタはアジア大陸で既に家畜化されていたものが弥生時代に日本へ持ち込まれたと考えられています。しかしながら、日本では、その後、仏教伝来以降、獣肉職が禁忌とされたために、「ブタ」をはじめ食用の家畜を飼育する習慣が普及せず、他方、稲作の害獣である「イノシシ」を退治するために狩猟する習慣だけは継続し、したがって「猪=イノシシ」という理解が存続してきたのではないかと想像を巡らせます（諸説あります。）。

ただし、両者の DNA を解析してみると、イノシシもブタも生物学的には同種であり、実際、相互に交配可能であり、生まれてくる仔「イノブタ」は、褐色の剛毛と牙を有しており、外見上はブタよりもイノシシに近いですし、家畜のブタも、豚舎から遁（豚？）走して野生化すると、剛毛が生え牙が伸びてくる「ノブタ」に変身するそうですので、極めて近縁の亜種と言えます。



また、生態についてみると、イノシシは、「猪突猛進」という成句があるくらいに突進力が強い反面、高級食材トリュフの掘り起こしに使われるくらい鼻が敏感で、神経質な動物でもあります。この点、ブタも、野生のイノシシと同様、土中の虫や植物の根・球根を掘り返して食べるため、敏感かつ硬い鼻先を備えていますし、突進してきてこの鼻先でしゃくり上げられると、人間なぞ軽々と突き飛ばされてしまいます。つまり、ブタは、表面上、家畜化された振りをしているだけで、実はイノシシ時代の野生を今も保持している訳です。

さて、JATE では、昨年あたりから「IoT」機器の試験や認証がじわりじわり増えてきており、今年は本格的に普及増大していくと予想しています。昨年 11 月 8 日開催の JATE セミナーで講演いただいた丹康雄教授（北陸先端科学技術大学院大学）によれば、「IoT」は、単に"Internet of Things"の頭文字の略で、モノのインターネットを意味するだけでなく、端末機器にセンサーとアクチュエーターを備え、これがネットを通してBD（ビッグデータ）やAI（人工知能）とフィードバックするところに本質があるそうです。その結果、我々の生活の利便や経済活動の効率・効果は向上することが期待される反面、乗っ取られて悪用さ

れるとセンサーとアクチュエーターが誤作動する危険もあります。従来のサイバー犯罪がネット空間内での被害（例：PW抜かれてDDoS攻撃の踏台になったり、情報を詐取されたりする。）に留まっていたのに対し、実物世界で物理的に人間の生命、身体、財産に危害を及ぼしますので、被害が質的にも量的にも変化してくるはずです。

ブタは、家畜化された今日でも敏感な嗅覚を保持し、いつでもノブタにもイノブタにも戻れる野生を潜在していますが、ヒトは、文明とともに五感を退化させてしまっていますし、ましてや便利なIoT機器に慣れてしまうと、IoTのリスクを嗅ぎ分ける野生も持たない無防備状態でIoTセキュリティに立ち向かわざるを得ないのではないかと危惧します。

この点で、IoT機器には従来型の端末機器に比して格段に高いセキュリティが重要になってくるので、今年も総務省はじめセキュリティ政策を充実、高度化させ、IoTセキュリティの技術基準を策定する動きが進んでいます。また、革新目まぐるしいICT分野では、イノシシ、ブタ、ノブタ、イノブタと形態を変えながら亜種間を渡り歩くように、亜種的な新技術基準が次々と登場してくるものと予想されます。

JATEでは、こうした新技術基準・新技術的条件に対応した認証サービスを、迅速かつ的確に、そして有線・無線両方をワンストップで提供していかねばならないと、新年の干支「亥」をよすがに思い巡らせる次第です。当協会としては、長年培ってきた品質や信頼を活かし、新年も「猪突猛進」、より一層に利便性を高めた事業運営に努め、関係者皆様方に貢献奉仕して参る所存です。引き続き、多大なご支援を宜しくお願い致しますとともに、益々のご利用を心からお待ち申し上げます。